

# ネイチャー高知

## 2019年度総会・講演会を開催します

2019年度定例総会・講演会を次のとおり開催します。

講演会の演題は「増え続ける外来植物 ー外来種調査 2017-2018 で記録された植物ー」で、講師は牧野植物園の田邊由紀さんです。

牧野植物園が市民との協働で 20017 年-2018 年に調査した高知県の外来植物について、新たに見つかった種を中心に、スライドを使って紹介いただきます。

日時 2019年2月23日（土曜日） 午後2時～4時（講演会の開場は1時30分）

場所 高知市旭町3丁目115番地  
こうち男女共同参画センター「ソーレ」3階 第1研修室（下記の地図参照）

講演会 午後2時～2時50分（開場1時30分）  
演題 増え続ける外来植物 ー外来種調査 2017-2018 で記録された植物ー  
講師 田邊由紀さん 高知県立牧野植物園

総会 午後3時から4時  
議題 2018年度活動報告  
2018年度会計報告  
2019年度活動計画  
2019年度予算  
その他



- ※ 総会への出欠の返事を同封の葉書で、2月16日（土曜日）までをお願いします。  
また欠席される方は、委任状の欄への記入もお願いいたします。
- ※ 講演会は会員以外の方の聴講も自由です。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。
- ※ ソーレは駐車場が狭いので、駐車できない場合があります。その際は、西300mほどのイオン旭町店さんの駐車場をご利用ください。お帰りにはお買い物もよろしく・・・

## わたしのフィールドノート

### 一本の桜の木

田城 光子

今は消滅してしまっているこの集落に、私が初めて足を踏み入れたのはもう20年ほど前のことである。小さな神社とわずかばかりの水田が残っているだけで、人家はすでになくなっていて、屋敷跡はスギ、ヒノキの人工林になっていた。春になると、林縁にはノダフジ、ヤマフジの紫や白の花房が賑やかに垂れ下がり、藤が多いことから神社は藤権現と呼ばれている。社殿のまわりにはヒロハコンロンカの華奢な木がどっさり生え、小さな黄色い花が咲くと萼片が白く目立つようになる。もう少し奥に行くと、かつて家畜が飼育されていた小屋が残っており、周囲には牧草の畑だったと思われる広い草原があり、イタドリやワラビが大群生していた。イタドリはどれもこれも先端がシカの食害にあっていたが、ワラビは有毒なことをシカも知っているのだろう、食べられたあともなく、丸まると太った美味しいのがたくさん採れた。数年前、イタドリの頃に行くと、すっかり柵で囲われ中がゆず畑になっていた。荒れ地が再び農地として活用されることは嬉しいが、イタドリやワラビがとれなくなったのは少々残念である。イタドリの頃にたびたび行くのは、山菜採りのためだけではない。もうひとつ理由があった。それは、ここに一本だけ気になる桜の木があるからだ。

その桜は、山道の法面の上に生え、大きな枝を道の上に伸ばし下の谷川のほうにまで垂れ下がっている。近くにはヤマザクラが点々とあり、もう少し標高の低い隣の集落に植えられたソメイヨシノよりも一足早く花を咲かせるが、このサクラだけは周囲のヤマザクラが花を散らしてしまって葉桜になったころ、ようやく開花を始める。約一か月遅れての開花である。毎年見ているうちに、他のヤマザクラと様子が違うことに気が付いた。標本採集に適した時期にはなかなかいきあたらないこともあって、やっと一枝だけ採集できたのは、2013年4月19日のことである。その日のノートを見ると

花と葉は同時に展開している

花は3分咲き 白 散房状花序 花柄はかなり長い 全体に毛はほとんど無い  
カスミザクラ? カスミザクラは有毛とのことなので、カスミではない?

など書いている。桜の図鑑をひいても、私の乏しい知識と観察力では同定には至らず、いまだにこのサクラは「？」のままである。今年こそはもう一度このサクラを訪れて、きちんと観察してみたい。

谷川沿いの水田跡と思われる湿地にはハンゲショウの大群生や、チダケサシも見られる。チダケサシは、昔を知る人によれば、花が咲くとあたり一帯がピンクに染まったという。今は竹藪の中で、ノウサギの食害にあいながらろうじて生き延びている。屋敷跡のスギの林床には、ハルザキヤツシロランが、道端ではクロムヨウランなども見られる。川岸の崖には、シダのスジヒトツバが垂れ下がる。まるで行く者の道案内をするかのよう、道に沿ってユキモチソウがたくさん咲く。自然遷移によってなくなっていくものもあるけれど、逆に再生

していくものもある。ここにまだ人の暮らしがあったころ、私の同級生がふたりいた。狭くぬかるんだ山道を、雨の日には背中まで泥をはねあげて徒歩で通学していた。おなかをすかした学校帰り、ユキモチソウは大福餅に見えたかもしれない。その同級生のひとりはずでに故人となり、もうひとりの消息を私は知らない。人が住まなくなって久しいが、森に棲む動物の気配、鳥のさえずり、木々のざわめきや花の色と香り、ここは今も賑やかな桃源郷である。



早春の里山に咲くヤマザクラ(本文とは関係ない場所で撮影したものです)

\*\*\*\*\*

## 行事案内

### 石鎚山系生物多様性保全推進シンポジウム

#### 増えすぎたニホンジカと生物多様性の危機

日時 2月11日(月曜日・祝日) 13時から16時30分

会場 西条市総合文化会館 西条市神拝甲79-4

基調講演 ニホンジカの生態と生態系へのインパクト 梶光一

石鎚山系におけるシカの歴史と現状について 山本貴仁

パネルディスカッション 石鎚山系における希少野生植物の保全推進について

パネリストは高知大学教授石川愼悟ほか

主催 愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会

参加申込先 愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会事務局(愛媛県自然保護課)

eメール shizenhogo@pref.ehime.lg.jp

申込締切 2月4日(月曜日) 定員に達していない場合は当日受付も可

## スミレに恋してその9

### タチツボスミレ・ナガバノタチツボスミレ・ニオイタチツボスミレ

～タチツボスミレの仲間②～

細川 公子

タチツボスミレは日本のスミレの中で分布範囲が最も広く、北海道～沖縄まで日本全土で見られます。高知でも、街中には少ないものの、道端の石垣や低山～高い山の歩道沿いにごく普通に観られます。松尾芭蕉の句で「山路きて なにやらゆかし すみれ草」はタチツボスミレを詠んだものといわれています。ところが、高知県の植物を特徴づける地質で蛇紋岩や石灰岩の露出している場所にはタチツボスミレは全く観られず、ニオイタチツボスミレも少ないです。一方、このようなアルカリ性の土壌を好んで生えているのはナガバノタチツボスミレです。ナガバノタチツボスミレの分布は静岡県以西の西日本。ニオイタチツボスミレは北海道南部～屋久島までほぼ全国に分布し、日当たりの良い草地に多く観られます。2月下旬になると、暖かい場所ではボツボツとスミレが咲き始めます。

タチツボスミレの仲間は有茎種ですが、咲き始めの時期は根生の茎（葉・花ともに）しか観られず、紛らわしいものです。見分けるポイントを挙げてみますので、身近なタチツボスミレの仲間を観察してみましょう。

#### タチツボスミレ

花は淡紫色で花弁は重ならない。側弁は無毛。葉は心臓形だが、花後はやや長い三角形になる。全草ふつう無毛。距を除き白花のものをオトメスミレという。



### ナガバナタチツボスミレ

花は淡紅紫色～淡紫色でタチツボスミレとニオイタチツボスミレとの中間ぐらいの色。花弁はやや重なる。側弁は無毛。葉は写真のように、根生葉は心形、茎から出る葉は長三角形となり、葉脈及び葉の裏側は赤紫を帯びる。全草ふつつ無毛。



### ニオイタチツボスミレ

花は濃紅紫色で、花弁が丸く唇弁の中央がくっきり白く抜ける。距は太い。葉は根生葉は心形、茎から出る葉は長卵形で葉の先は尖らない。全草に粉を降ったような微毛に覆われる。名のとおり芳香を有するが、強弱があるので殆ど匂わない個体もある。



\*\*\*\*\*

## 野山での拾い物 アオサギの羽

坂本 彰

鳥の羽については以前から少し関心があり、散歩の途中や山登りの際に気を付けて拾っている。拾ったものは羽の図鑑を使って落とし主やどの部位の羽かを調べているが、中にはなかなかわかりにくいものもある。今回の羽の色や大きさ、落ちていた場所からアオサギであろうと判断した。



アオサギは神田川でよく見かけるし、早朝の散歩の際には道路わきの水路でも見かける。神田川の南岸に近い広葉樹林では小規模ながらコロニーをつくっている。神田川に沿った歩道を歩いていると、時々魚を捕っている場面に遭遇する。神田川は両岸がコンクリートで覆われた掘込構造の河川で、水深もほぼ均一、お世辞にも自然豊かとはいいがたい河川であるが、魚影は濃く、それを狙って鳥もやってくる。アオサギやコサギのほか時にはカワセミも姿を見せる。図体の大きいアオサギの狩りはなかなかダイナミックで、岸辺から魚を狙って水中にダイブするのを見かけたが、結構迫力があって感動した。

ところでアオサギは青（蒼）い鷺のという意味で、その体の色から付けられた名前だろうとは容易に推測されるが、どうもじっくりこない。調べてみると英名は grey heron で直訳すれば灰色鷺、学名は *Ardea cinerea* で種小名の cinerea は「灰色の」の意味である。図鑑で羽の色がどのように表記されているかを見てみると、日本野鳥の会の「日本の野鳥」では青灰色としているが、日本動物大百科の鳥類Ⅰでは灰色を使い青灰色という文言は出てこない。確かに青みがかかった灰色とはあるが、ことさら灰色との違いを強調する必要もなく、ハイロサギとした方が分かりやすいと思うが、そうしなかったのは昔の日本人の色彩感覚の繊細さだろうか。

話を拾ったアオサギの羽のことに戻そう。羽の図鑑によれば、鳥の羽は風切羽（かざきりばね・かぜきりばね）、尾羽、雨覆羽（あまおおいばね）、体羽（たいう）の大きく4つに区分される。さらに、風切羽は外側から初列風切羽、次列風切羽、三列風切羽に区分され、雨



覆羽は翼の上面にある上雨覆と裏側にある下雨覆(裏雨覆)に、上雨覆はさらに初列雨覆、大雨覆、中雨覆、小雨覆に分けられる。各部位ごとに羽の形や色、模様が異なっており、羽を見ればその羽が何の鳥で、どの部分の羽かを識別できるとのことである。今回のアオサギについては、手持ちの図鑑には掲載されておらず、「鳥の羽」というHP

(<http://www.geocities.jp/yamanotesal/>) を参考に調べた。アオサギは羽に文様がなく、難しくてこずった。尾羽だろうとの結論に至ったが自信はない。どなたか鳥に詳しい方に見ていただかなくてはと考えている。

# 日本自然保護協会自然保護大賞 2019 保護実践部門 三嶺の森をまもるみんなの会の活動に決定

1月21日、日本自然保護協会から日本自然保護大賞 2019 の大賞 3 部門、沼田眞賞 1 件、選考委員特別賞 3 件の授賞者決定の発表がありました。その中で大賞の保護実践部門で三嶺の森をまもるみんなの会が選ばれました。

日本自然保護大賞は、2014 年、日本で自然保護憲章が制定されて 40 周年という節目の年に創設された制度で、今年で 5 年目になります。自然保護大賞を四国の団体が受賞するのは初めてです。

## ■日本自然保護協会亀山理事長の講評

この部門は本年度も各地から多くの応募があり、保護活動が地域に定着して確実に成果をあげていることがわかります。なかでも「三嶺の森をまもるみんなの会」は、高知県随一の原生的な自然がシカの被害によって貴重な植生を失い、土砂の崩壊と流出の原因となっていることに対して、保護・保全、再生活動を展開してきました。この会の特徴は、青壮年、児童、高齢者など多様な人々が参加され、国・県・地元 3 市と連携し、より力強い多様な活動が展開されていることです。その成果は、100 ページ余の冊子「シカ被害で痛む三嶺の森—再生への途と課題」にまとめられ、各地の活動の参考になるものと思われま

高知新聞 2019 年 1 月 23 日 朝刊

## 新 聞

昨年10月に「三嶺の森をまもるみんなの会」が100人ほどで行ったシカ防護ネット張り（香美市物部町の三嶺）



# 「三嶺をまもる会」に大賞

【曹長】シカの被害が広がる三嶺や物部川などの保護活動を行う「三嶺の森をまもるみんなの会」（依光良三代表）がこのほど、日本自然保護協会（東京都）が毎年選定する「日本自然保護大賞・保護実践部門」に選ばれた。本県初の快挙に依光代表は「全国から三嶺保護に関心が集まるよう今後もまい進したい」と意気込んでいる。（竹内将史）

## シカネット 土壌マット 自然保護協会が評価

同協会は全国の約2万5千人の会員や企業・団体と共に、科学的な調査に基づいて生熊や生物多様性を守る活動をしている。環境省の後援を受けた「一大賞」は2014年にスタート。研究者らが選考委員を務め、今年には全国から集まった個人団体88件から保護実践、教育普及、子ども・学生の3部門に大賞を贈った。

「みんなの会」は26日午後1時15分〜4時45分、香美市土佐山田町町野2丁目の市立中央公民館で、シカ被害と自然の再生を考えるシンポジウムを行う。無料。麻布大学などの博物館の高槻成紀上席学芸員が講演するほか、会害対策について報告する。

「みんなの会」は07年に研究者や市民らで結成した。国・県・物部川流域3市などと協働して、9・5㎡以上に及ぶシカ防護ネットや、土壌流出を防ぐマット5千平方メートルを山域に設置。これまで延べ3400人が活動に参加し、森の再生に成果を上げていく。「一大賞」と会の方針が一致することから依光代表が初めて応募。同協会から「児童から高齢者まで多様な参加があり、国や県も絡めた力強い取り組み。各地の活動の参考になる」と評価され、大賞に決定した。

依光代表は「努力してきたことが認められてうれしい。近隣県と連携を強めて、後継者を育てる活動を発展させたい」と決意を新たにしていた。授賞式は3月30日に東京で行われる。

26日にシンポ

## 観察会のお知らせ

### スミシと早春の花観察会

筆山から皿ヶ峰にかけて、林縁や草原に咲くスミシ類、春の花を観察します。  
筆山周辺では林縁や林床に咲くスミシが、皿ヶ峰では明るい草原に咲くスミシが観察できます。

開催日時 2019年3月30日(土曜日) 午前9時から  
場所 高知市筆山・皿ヶ峰周辺 9時筆山第2駐車場に集合  
(皿ヶ峰登山口北トイレのある駐車場)

講師 細川公子さん  
持ってくるもの メモ用具 あれば図鑑  
雨天中止です

\*\*\*\*\*

### 「ネイチャー高知」の原稿募

「ネイチャー高知」は、高知県自然観察指導員連絡会の機関紙として、1月、7月の年2回発行しています。身近な観察記録など、どしどし投稿ください。  
投稿に関するお問い合わせは下記事務局までお願いします。

### 会費納入のお願い

2019年度の会費の納入をお願いします。金額は年額(1月から12月までです)1,000円です。  
納入方法は郵便振替が安価で便利ですので、郵便局備え付けの振替用紙を利用して、振込みをお願いします。(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は口座振替も利用できます)

郵便振替の振込口座番号は 01630-9-41422

加入者名は 高知県自然観察指導員連絡会 です

### 「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報 No. 52

事務局 780-8075

高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰 方

TEL&FAX 088-850-0102

E-Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp